令和2年度 富島高等学校（全日制） 学校評価

スローガン「生徒に自信と誇りを！！」～高い志を持ち社会で通用する人材の育成～			【学校関係者評価のポイント】
校訓 自立 己の個性を伸ばす自立の心を育て、 友愛 信頼と協調により友愛を深め、 創造 心豊かな生活を目指して創造力を伸ばし、 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。	教育目標 己の個性を伸ばす自立の心を育て、 信頼と協調により友愛を深め、 心豊かな生活を目指して創造力を伸ばし、 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。	重点目標 「生きる力」を育むことを基本として (1) 「頭」を鍛え、伸ばす(学力の向上と進路の実現) (2) 「心」を鍛え、育てる(心の教育の推進と充実) (3) 「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と部活動の活性化)	具体的取組 (1) 主体性、特別支援教育の視点、基礎基本 (2) 社会生活スキル、集団活動、健康教育 (3) ICT教育推進と環境整備、教室環境整備 (4) 読書活動推進、メディア教育推進

重点目標	評価項目	具体的方策又は具体的指標	自己評価	成果及び改善策	学校関係者評価	評価・具体的意見
(1) 「頭」を鍛え、伸ばす (学力の向上と進路の実現)	①生徒の理解度に応じた指導の推進	○学ぶ意欲や授業態度を育成する ○生徒の能力を伸ばす指導と学習の遅れを考慮した指導の推進を図る	A	○本年度は、新型コロナウイルス感染拡大で1学期は長期の臨時休業期間があり、生徒は自宅での学習を余儀なくされた。自宅学習の習慣化が定着できず、1学期末には成績が学習達成基準に満たない生徒がでた。○リモート学習の環境を整えることが難しかった。早急にICTの環境整備を進めるとともに、自主的に学習に取り組む態度を育てる必要がある。また、学習評価を見直し、個別指導を充実させるなど、生徒の学ぶ意欲や真摯な授業態度の育成を目指して努力したい。 ○本年度は、「授業ルール7(授業改善の取組)」を実施し、生徒の自己評価を行った。授業態度の改善及び育成につながった。	A	○コロナの影響による授業の遅れがないよう対策を講じること。 ○リモート学習は家庭環境で差が出るのでタブレット等の貸し出しを効果的にすること。 ○授業ルール7は授業態度改善につながった。
	②授業環境の整備	○ICT教育環境の整備と教室環境整備の推進を図る	C	○職員が、「校内LAN(校内メール)」を活用するよう心掛けた。活用が徐々にできている。また、ICT教育の推進を更に進める必要がある。生徒と職員の双方向の情報提供ができる環境を支援していきたい。机椅子の交換など、環境整備部、事務部と連携を取って整えるなど、教育環境の整備に努めたい。 ○コロナ禍の中で生徒の「学びの保障」の観点からもICTを活用した授業の実施をより推奨していく。 ○積極的にICT機器を活用した授業を展開することで、学習に対する関心度は高まりつつある。 ○ICT教育環境の整備途中ではあるが、タブレット等一部機材の導入は図れている。今後も計画的に整備を進めていく。	C	○ICT環境の早期整備を望む。 ○校内LAN活用を効果的に活用し働き方改革につなげること。 ○生徒のICTの活用能力を高めること。
	③研修への積極的参加	○校内研修・校外研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図る	C	○本年度は、コロナ禍の状況であり、授業公開が実施できなかった。 ○職員の授業力向上のため、来年度はコロナ対応を図りながら実施期間を設けたい。	C	○コロナ禍の影響で実施できなかったのはやむを得ない。 ○コロナ禍における授業力向上対策をしっかりと構築すること。
	④専門教育の充実	○専門教育を充実させ、ビジネス教育や家庭教育の推進を図る	B	○コロナ禍で生徒商業研究発表班の地域連携活動や生活文化科のボランティア活動が自粛となるなど、本年度は地域と連携した取組ができなかった。 ○令和4年度より、新学習指導要領が年次実施される。資格取得の推進のみではなく、地域と連携した活動も更に推進する必要がある。 ○専門教科に対して目的を持って学習する生徒が多く、活気のある授業が展開されている。 ○専門教育においてアクティブ・ラーニング(能動的な学習)などを積極的に導入し主体的・対話的で深い学びを実現していく。 ○資格取得やビジネスプラン発表会等の商業ならではの教育、コース制を導入し興味関心に応じた家庭科の学びを深める教育を各学科で行い成果を上げている。 ○今後、探究的な学習や急速なICTを活用した授業が主流となる。職員が研修を深め、新しい学びに対応していく必要がある。 ○1年生では基礎基本の定着を図り、外部講師による生活産業分野の講習を経て、専門分野に関する職業意識を高められた。 ○2・3年生では専門教科の深化を図り、行事などで能力を十分に発揮し、家庭クラブ発表大会では全国大会で2位の実績を上げるなど専門性を活かした成果を上げることができた。	B	○授業研究は生徒のみでなく、授業力向上を図る上で、先生自身のためにも重要。 ○外部講師の講習によりどのような変化が見られたかを検証し、次年度に活かすこと。 ○家庭クラブでの取組が実社会で活かされることを期待する。 ○コロナが終息したら地域との連携を積極的に取り組むとともに、コロナ禍における連携の工夫も必要である。
	⑤資格取得の推進	○資格取得を推進し達成感・成就感を与えることで学ぶ意欲を喚起する	B	○コロナ禍で臨時休業もあったが、1年生に対しては基礎的・基本的技能や知識を習得させることができた。生徒は検定合格に向けて、協働しながら努力した。高度な検定・資格の合格率は例年を下回った。 ○検定取得に向けて意欲的に取り組む生徒が多く、積極的に学習する姿が見られる。授業で身に付けた知識や技術が、どの程度身に付いているのかを検定試験で試し、日々の授業の学びの改善につなげている。 ○Wi-Fi環境など、高度な検定・資格にチャレンジできる学習環境を整えていく。 ○生活文化科では、検定取得への意識が高く、1年生においては前期で4級取得、2・3年生では1・2級の取得を目指してよく取り組み、高い合格率を上げた。	B	○高度な検定・資格の合格率アップに向け、地道な取組を期待する。 ○コロナ禍で、合格率を上げることができたのは評価できる。
	⑥キャリア教育の推進	○各教科の授業のみならず、全教育活動を通したキャリア教育を推進し、生徒の学ぶ意欲の喚起と学力の向上につなげる	A	○今年度はコロナの関係で制限や形態の工夫が必要になったが、1・2年生の時期から、「進路調べ学習」や「キャリア教育の日」を通して、進路意識を高めることができた。キャリア教育の延長線上にある、学力向上については、さらなる努力と積み重ねが必要である。	A	○主体的・対話的で深い学びを通して生徒の学力向上を図ることを期待したい。 ○早期のキャリア教育は、学ぶ意欲に確実につながられる。
	⑦継続して就業できる社会人の育成	○校内外のガイダンスやインターンシップ及びボランティア活動の充実を図り、継続して就業する心構えを持たせる	B	○3年生の総合的な学習の時間では、就労関係についての時間を設けて意識を高めさせた。今年度も2年生全員にインターンシップを課し、就業についての心構えをもたせる予定であったがやむを得ず中止とした。 ○オンラインで大学や企業との連携を図ることで、生徒に自信と安心感を与えることができた。	B	○オンライン等を更に推進し1・2年の時期からオンライン対応のノウハウを身に付けたい。 ○インターンシップはできなかったが、ホームページやオンラインで積極的に情報収集すること。
(2) 「心」を鍛え、育てる (心の教育の推進と充実)	①基本的生活習慣の確立	○新しい生活様式を考慮した基本的生活習慣の確立を図り、自立心・忍耐力の育成に努める	B	○本校生としての基本的生活行動の仕方について、3密を避けること等を考慮しながら指導を進めてきた。全体的には学校生活の過ごし方について、徐々にではあるが「県立学校の新しい生活様式」が確立されてきた。ただ、コロナ対策を考えるとマスク着用など不十分な面も見られる。 ○ほとんどの生徒が、遅刻することなく学校生活を送っている。また、大会等が中止や延期される中、部活動を日々頑張っている生徒も多く、主体性や忍耐力等の育成にもつながっている。	B	○本年度の反省を踏まえ、コロナ禍でも規則正しく学校生活に対応できるよう、日頃から準備しておく必要がある。 ○自分の健康を守り、他人への拡散を防ぐ上で、マスク着用を徹底すること。 ○遅刻なしで学校生活を送れたことは、評価に値する。 ○コロナ禍で生徒はよくがんばった。

※ A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分

重点目標	評価項目	具体的方策又は具体的指標	自己評価	成果及び改善策	学校関係者評価	評価・具体的意見
(2) 「心」を鍛え、育てる (心の教育の推進と充実)	②無言集合、集会指導の推進	○無言集合を定着させ、3密を避けて静かで安全な式典等を行うための指導を推進する	B	○現在、放送での式典や学年ごとの集会等の企画になっているが、教室では静かに放送に耳を傾ける習慣はついてきた。集会についても、人数が減ったため指導が行き届くようになってきている。 ○今後は、状況に応じて臨機応変に対応できる能力を高めさせ、全校生徒が集まる機会が確保できるようになったときに、集団行動がしっかりできるよう意識付けたい。	B	○これまでの集会や式典にとらわれず、効果的な方法を工夫していく必要がある。 ○状況の変化に対応できており、学年ごとの集会は連絡事項が徹底できるなど良さもあった。
	③命を大切にす教育の推進	○あらゆる場面・機会をとらえて、安全指導等を実施し、自他の命を大切にす教育を推進する	B	○学校内外における安全指導について、個別集会や放送・文書等を活用して指導してきた。今のところ大きな事故もない。100%安全に近づくために、今後も生徒の危機管理意識を高めなければならない。 ○地域から自転車等の交通状況についての苦情も寄せられるが、その都度、指導啓発に努めている。家庭との連携も含めて安全意識を高めていきたい。	B	○保護者への情報共有と家庭教育における協力が必要である。 ○命を大切にす教育は、全職員・全教育活動で取り組むこと。 ○自転車での携帯電話使用を厳しく注意する必要がある。 ○感染者が出ていないので学校の取組に感謝している。
	④安全管理の徹底	○危機管理、防災対策に組織的に取り組み、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する	A	○避難訓練(地震・津波)を清掃時間にそれぞれの場所から行き、生徒・職員ともに初動をどうすればよいか考えるきっかけになった。放送が使えない場合や避難後の人数の把握についても課題が見つかった。また、備蓄品についても必要な物や必要数を整備していきたい。 ○災害時に避難しやすいように個人の荷物を教室の両端に置くなど、防災対策を意識した教室レイアウトにしている。 ○DIG(災害図上訓練)研修を通じ、地域の危険箇所や避難場所をハザードマップで確認した。登下校中の避難場所を確認する機会になった。	A	○登下校中の避難が気になるので、日向・門川地区4校を巻き込んだ大規模訓練が必要である。 ○地域との連携を促進する必要がある。 ○避難訓練や防災対策など、危機管理の取組はよくできている。
	⑤スクールリーダーの育成	○学校行事やホームルーム活動等を通してスクールリーダーの育成に努める	B	○今年度は、校内外の行事が中止・縮小され、生徒が主体的に活動する場が半減している。そのような中、1学期は規模を縮小して生徒総会を実施し、2学期の無観客での体育大会と輝柏祭(文化祭)へとつなぐことができた。体育大会では3密を避ける種目を企画し、輝柏祭では初めて校外施設での実施と試行錯誤であったが、生徒主体で企画運営ができた。例年と違った形でリーダーの育成につながると考えている。少ない時間と活動の中で、生徒を最大限に活かす工夫と指導を考えていきたい。 ○コロナ禍の中、感染防止や時間短縮を考えた上で、体育大会は生徒実行委員会を立ち上げ、企画から運営まで生徒主体で行った。生徒会行事を中心に、企画立案の段階からリーダー育成に力を注いでいる。さらに、自分の役割に自覚を持たせ、各々がリーダーになれる場の提供を考えていきたい。学校行事と日常生活の活動が合致してくると、あらゆる場面で主体的に行動できる生徒が増えてくると考える。自主性から主体性へと発展させていきたい。	A	○学校行事以外の日々の生活における育成機会の創出が重要である。 ○コロナ禍の中、これだけのことを生徒主体でできたことは大変すばらしいこと。 ○学校行事を通して、主体性を培って欲しい。 ○今年度は体育大会や文化祭を観ることができなかったが、主体的に活動し成功させるのは富島高校の伝統である。
	⑥朝の10分間読書の徹底	○朝の10分間読書とともに普段の読書を推進する	B	○本年度も4月より10分間読書を実施した。12月に実施したアンケートによると、91%の生徒が取り組めた。76%の生徒が肯定的に捉えている。一日の始まりが落ち着く23%、本を多く読むようになった26%と答えているので、一定の成果があると判断できる。今後は図書館の借出冊数増加につなげたい。	A	○読書は「心のごはん」、読書はとても大切である。 ○積極的に読書に取り組めたことは大変良かった。 ○継続することで成果は上がる。
	⑦豊かな心の育成	○読書や体験活動を通して豊かな心の育成に努める	C	○本年度、図書部と渉外厚生部が一つとなり、事実上、図書に直接関わることのできる職員が減り、読書を通して心の育成をする活動ができていない。今後はLHRを使った集団読書の取り組みが必要であると考えている。 ○学期に1回、人権教育の一環として、よりよい人間関係づくりに向けた活動(ピアサポート等)を実施している。内容については、その学年の生徒の状況等に応じて検討していく必要性を感じている。 ○年度初めの清掃オリエンテーションをしっかりと実施し、効果的な清掃の在り方や学び舎をきれいにすする心を育てたい。 ○11月以降校内クリーン活動を学年ごとに順次取り組んできた。特に教室・外庭など普段の清掃時にできなかった場所が綺麗になり、良い学習環境づくりにつながった。 ○学級の花壇、体育館前、校長室前の整備をクラス単位、生活文化科の校内ボランティアにより実施した。コロナ禍の中で、3密を避けるための工夫ができたが、今後の状況等に応じて、来年度以降検討していく必要性を感じている。	C	○読書を心の育成につなげていくことが大切である。 ○今後、さらに人間関係づくりに力を入れ、生徒のソーシャルスキルを高めていく必要がある。 ○除草作業等行き届いており校内がきれいでした。 ○花壇の花が色とりどりだときれいです。
	⑧特別支援教育体制の充実	○教育相談体制を充実させるとともに、関係機関と連携して特別支援教育体制の充実を図る	B	○特別支援学校(エリアコーディネーター)の先生に巡回相談を依頼し、支援が必要な生徒への対応について助言等をいただいた。 ○コロナの影響もあり、学校教育活動が変動的な状況も多く、今年度は様々な面で支援が必要な生徒が増えた。臨時派遣のスクールカウンセラーとの連携により好転した案件も多々あった。 ○校内における支援体制は十分とはいえなかった。対生徒、対教師、対保護者との連携を含め、支援体制を改善していく必要がある。	B	○教育相談等の対応が大変だったと推察します。 ○コロナの影響で心のケアを必要とする生徒も多く、大変だったと思いますが、これまで同様、生徒への丁寧な対応をお願いしたい。
	(3) 「体」を鍛え、伸ばす (体の育成と部活動の活性化)	①健康教育や安全管理の充実	○生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る ○生涯にわたる健康の保持増進のための教育の推進を図る	A	○健康講話は、性についての話から自分の生き方について考えを深める良いきっかけとなった。生徒の実態に即した講話で、生徒の感想からも非常に参考になったことがうかがえる。また、講話後、担任によるフォローで、自分の身体・心に対する関心がより高まった。 ○保健室との連携をはじめ、日々の会話や観察により、生徒の小さな変化にも気づくことができていく。	A
②豊かな人間関係を育む		○部活動や学校行事等を通して自己の鍛錬と個性の伸長を図り、リーダーの育成に取り組むとともに豊かな人間関係を育む	B	○積極的に部活動に取り組む生徒が多く、部長・主将を中心に主体的に活動し部活動が活性化している。生徒個人の長所を活かす活動がみられ、運動部・文化部ともに成果が上がっている。部活動で身に付けたことを学校生活の中で活かすまでには至っていない。 ○学校行事を通して、様々な生徒がリーダーになれる環境をつくり、チャレンジできるようにしている。役割分担をして自己有用感を持たせ、他者への貢献を認識できるようにした。さらに、フォローアップを育むことで、他者を思いやる心をさらに高め、よりコミュニケーション能力の高い人材を育成したい。	A	○部活動同様、学習にも力を入れると学校が一変します。 ○これだけできていることを学校が評価してあげればよい。 ○各種大会が中止となり、計り知れない悔しさがあったと思うが、この経験を次のステージで活かして欲しい。 ○文芸部・放送部が全国高総文祭のキッズプレスプロジェクトに委嘱されており、積極的に取り組んでいる姿がうかがえた。

※ A : 十分達成

B : 概ね達成

C : 検討の余地あり

D : 不十分